

令和7年度第2回横浜市保健医療協議会会議録	
日 時	令和8年2月16日（月）19時02分～20時40分
開催場所	横浜市役所18階みなと1・2・3会議室
出席者	赤瀬智子委員、石川ベンジャミン光一委員、田原恵委員、伏見清秀委員、石内亮委員、齊藤悦子委員、坂本悟委員、佐藤信二委員、白水秀毅委員、戸塚武和委員、中村雅一委員、松井住仁委員、三浦百合子委員、溝呂木啓之委員
欠席者	宮城悦子委員、佐伯隆史委員、八亀忠勝委員
開催形態	公開（傍聴者0人）
議 題	<p>議 題</p> <p>（1）令和7年度病床整備事前協議について [非公開] 【資料1】</p> <p>報 告</p> <p>（1）配分済み病床の整備進捗状況について 【資料2】</p> <p>（2）「横浜市新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定について 【資料3】</p> <p>（3）令和8年度医療局予算案について 【資料4】</p> <p>（4）令和8年度健康福祉局予算案について 【資料5】</p>
決定事項	<p>1 議題（1）について、非公開とする。</p> <p>2 令和7年度病床整備事前協議については、病床整備検討部会で検討・作成した配分案を本協議会の配分案として、市長に報告することとする。</p>
議 事	<p>開 会（オンライン開催に係る注意事項、定足数、傍聴人の報告、議事録の作成）</p> <p>（事務局新堀医療政策課長）本会議の一部非公開についてお諮りいたします。本日の議題（1）令和7年度病床整備事前協議に関しましては、個々の医療機関から提出された情報に法人または個人の事業計画等が含まれており、参考資料2の横浜市の保有する情報の公開に関する条例第7条第2項第3号のア及び第5号の非開示情報に該当いたします。この非開示情報に該当する事項を審議する場合は、同条例第31条ただし書第2号、会議非開示の事由に該当いたします。したがいまして、参考資料1の、当協議会の運営要綱第8条のただし書によりまして、議題（1）につきましては、委員の皆様の承諾を得た上で非公開とすることを事務局として提案いたします。</p> <p>（伏見会長）ただいま事務局から議題（1）令和7年度病床整備事前協議については非公開とするとの提案がありましたが、このことについて皆様からご意見・ご質問等ありますでしょうか。特に異議なしということよろしいでしょうか。</p> <p>（委員）[異議なし]</p> <p>（伏見会長）それでは、議題（1）については非公開とします。</p> <p>議 題</p> <p>（1）令和7年度病床整備事前協議について [非公開]</p>

報 告

(1) 配分済み病床の整備進捗状況について【資料2】

(事務局岩崎地域医療課担当課長) [報告(1)について説明]

(伏見会長) ただいまの事務局からの報告につきましてご質問・ご意見等ありますでしょうか。

(委員) [意見なし]

(2) 「横浜市新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定について【資料3】

(事務局山村健康安全課企画調整担当課長) [報告(2)について説明]

(伏見会長) ただいまの事務局からのご説明につきましてご質問等ありましたらお願いいたします。

(委員) [意見なし]

(3) 令和8年度医療局予算案について【資料4】

(事務局堀総務課長) [報告(3)について説明]

(伏見会長) ただいまの事務局からのご説明についてご質問等ありましたらご発言をお願いいたします。

(戸塚副会長) 横浜市医師会の戸塚でございます。予算につきまして、医師会の要望を大変多くお認めいただきましてありがとうございます。まず1つは総合的ながん対策で、がん検診が65歳以上無料化と精密検査が無料化になりました。5歳若い方まで無料化になったのは大変ありがたいことですが、無料になると受診率が爆発的に増えるのではないかと考えているのですが、予算は大丈夫なのでしょうか。带状疱疹ワクチン接種の助成では5歳刻みで進めたにもかかわらず、予想の3倍の勢いで接種を希望される方が増えたということもありましたので、その辺をお聞かせいただきたいというのが1つです。

次に、骨粗鬆症検診に関する予算は残念ながら今年は見送りにになりました。来年、令和9年度にはまた要望させていただきますので、ご検討をお願いしたいと思います。

3番目ですが、16ページ、2040年に向けた医療提供体制の構築という項目で、在宅医療・介護の充実が重要とするところがございます。地域医療構想の中でもベッドの数はあまり問題ない、十分足りているということで、いかに地域の中で高齢者を見ていくかということが重要な課題となっております。2026年6月からの診療報酬の改定でも、高齢者救急の上り搬送についての新たな加算や、医療DXの推進など、様々な点数がつく心配がございます。医師会でも高齢者医療の検討を続けておりましたが、医療・介護連携体制の構築・推進ということで、様々な病院、区医師会、訪問看護、ケアマネジャー、地域ケアプラザ、その他特別訪問、その辺の2方

面27団体が先行的にいろいろなことを話し合っておられると聞いております。立場が違うとなかなか意見が一致しないことも多いのですが、私どもはまず、高齢者救急を考えるとということで、先月、病院関係の方にお集まりいただいて高齢者の救急搬送についてお話を伺いました。市の病院協会会長にもご出席いただいております。緊急性のある方は確実に高度急性期病院へ搬送する、これが最も重要なこととございます。一方、処置の終わった方は、下り搬送をして回復期に直ちに移すか、リハあるいは包括ケアを行う施設へ搬送し、その後は慢性期病床あるいは在宅で見るという立てつけになっておりますが、これがうまくいかない。高齢者が高度急性期に押し寄せたら立ち行かなくなる以上、いかに三次救急へ行く高齢者を選別するかということが課題となるため、高度急性期の湘南鎌倉総合病院の救急の先生においていただいて、事情を伺いました。あれほど多くの救急患者が押し寄せてしまうと、全ての方を入院させるわけにいかないのです、やはりトリアージをしているわけです。本当に緊急の症例は入院させますが、それほどでもない方もいるわけです。そういう方でも、最初は背景の事情や基礎疾患が何も分からないまま救急に運ばれることもあるわけです。その場合には、入院させずにストレッチャーに乗せた状態で、いろいろな検査をして診断をある程度つけ、病気の重症度を判断して二次の急性期病院に移送するあるいは帰宅させるという判定をされており、なるほどと思いました。この事情を知ってほかの急性期や回復期の病院の先生方もなるほどというお話をしておりましたが、これからも本音でこの状況を改善する方法はないかという話を続けていきたいと思っております。

それから、市医師会では医療人材確保支援事業としてEnnPath(エンパス)という名称のアプリを1月29日より立ち上げました。これはともかく人材不足を解消しようという試みでございまして、マッチングが成功して看護師さんを1人採用したクリニックが出ました。また、潜在看護師の掘り起こしで研修事業も行っております。

また、災害時のことですが、予算をつけていただき、災害時の医療情報基盤をつくりました。5月から稼働しますが、これは平時だけでなく、災害発生時に診療可能な医療機関がランプで点滅して情報が一目で分かるという優れたものでございます。こういったものを利用して貢献したいと思っております。

(伏見会長) 事務局、いかがでしょうか。

(事務局原田医療局長) 5点ほど戸塚会長からご意見・ご指摘を頂いたかと思いません。まず1点目のがん検診の予算に関してですが、先ほど説明を頂く中で、今年度の带状疱疹ワクチンの予算額についても言及いただきました。带状疱疹ワクチンについては、今年度初めて実施するということがございまして、なかなか接種率が読みづらいということがございました。私どもとしては、予算の段階では約10%程度の接種率を想定しておりましたが、現在、3割を超える対象者の方々に接種いただいております。先日、補正予算を議会にもお認めいただいて増額補正をさせていただいたところでございます。がん検診につきましては、65歳の方の無料化をしたところ、やはり検診

の受診者は増えております。特に胃がんの内視鏡検査などでは、65歳の方に限ってですけれども、3.8倍ぐらいに増えていると。これは恐らく無料化の効果だろうと思っておりますが、全体ではそこまでではないにしても、やはり相当程度の増加は見込んでいく必要があると思っております。当初予算の中でも一定程度は増加分を見込んでおりますが、状況に応じて補正などの対応が場合によっては必要になってくる可能性があると感じております。いずれにしても、受診を抑制するというのではなく、必要な予算についてはきちんと補正で対応するという考え方でいきたいと考えております。

2点目の、医師会からご要望いただいております骨粗鬆症検診に関する予算でございますが、これは健康福祉局予算の中で検討してまいりました。来年度予算については、なかなか全体の中では厳しいという状況でございましたが、また9年度に向けてどのようなやり方で予算が措置できるのかということについてはご相談していきたいと考えております。

3点目の、2040年に向けたワーキングの件です。湘南鎌倉総合病院の例もお話しいただきましたが、やはり救急車が一旦、患者を運ぶ先としては、救急受入が可能な限られた大病院に行くケースがどうしても多くなってくるかと思えます。市内でいえばみなと赤十字病院が最も多く、救急車を受け入れており、また、市民病院も8000台近くの救急車を受け入れています。その他の地域中核病院を含めてそのような大病院にまずは搬送されるケースが多いただろうと思っております。その結果、やはり症状によっては、後方病院のほうに転院搬送しないと、高度急性期を担う病院がどうしてもパンクしてしまいますので、この流れをスムーズにしていくことが大きな課題と考えており、検討を深めていくためのワーキングであります。今年度は、東部病院を中心とする市の東部方面と、南部病院を中心とする南部方面の圏域でこのワーキングを試行しておりますが、病院はもちろん、高齢施設や在宅医療を担うドクターの方々にも幅広く参加していただき、どのような情報をきちんと共有できれば、患者さんをスムーズに最適な場所に移動していただくことができるのかというような検討は深まってきていると感じており、1年目としては成果が上がりつつあるのかなと思っております。来年度は、当局の説明にもございましたが、市域全体にこれを拡大していきたいと考えております。

4点目の、医師会で開発していただいております人材確保のためのアプリでございます。これは求人と求職のマッチングのシステムとお考えいただいているのかなと思っておりますが、先ほどご紹介がありましたように、既に1名、マッチングが成立して市内のクリニックで働くことになったと聞いております。これはどんどん職員を募集する医療機関が登録していただき、また同時に、改めて看護師を目指そうと、看護師として働きたいという人が登録していただき、マッチング数が増えるように市としてもバックアップしていきたいと考えています。

最後に、災害時の情報基盤でございます。これも市内のクリニックをスマホなど

の画面上で表示して、特に災害時に診療が可能なのか、診療しているのかどうかということが、それを見れば分かるという仕組みであります。災害時はもちろんですが、平時からも活用できるということで、患者さんにとっては非常に便利な仕組みになると考えております。来年度、医療局の予算の中でも一定程度、支援の予算措置をしておりますので、早急に開発に向けた協議をしていきたいと考えております。以上でございます。

(伏見会長) ほかにご意見等ありますでしょうか。

(坂本委員) 薬剤師会の坂本です。災害用井戸水ですが、今は近くの各福祉保健センターに持ってきていただくというシステムになっていますが、この制度ができたときは現場に行って検査をしておりました。実際に現場に行った頃によく感じたのは、ほとんどが電動ポンプのため、停電したら水は取れない。整備ということでは電動というよりも手動ポンプの復活というのが望ましいなと思います。

また、GREEN×EXPO 2027の診療所に関して、これも36年前の横浜博覧会に薬剤師として行ったことがあります。たしか診療所が2か所あって医師と看護師と薬剤師がいたのですが、場所が分かりづらく、そこに来られなかった方が多かったので、今回は分かりやすい場所にしないと、せっかく先生たちが詰めても患者さんが困ってしまうと思いました。ぜひよろしくお願いします。

(伏見会長) 事務局、いかがでしょうか。

(事務局牛頭健康安全部監視等担当部長) 災害応急用井戸の修繕ですが、今回新たに補助する予算を計上させていただきました。委員がおっしゃったように電動ポンプが今、非常に多くなっていますが、災害時も電気の復旧は比較的早いというような傾向もございますので、今回は電動ポンプも含めた修繕を補助の対象としていくことで考えております。

(事務局大友地域医療部長) GREEN×EXPO 2027の医療救護体制についてですが、今、GREEN×EXPOの協会のほうと具体的な救護体制について詰めているところでございます。委員おっしゃるとおり、やはり何かあったときに医療施設のほうにすぐにかかれるような体制が必要だと思いますので、分かりやすさというところもしっかりと協議してまいりたいと思っております。

(伏見会長) 続きまして、佐藤委員、お願いいたします。

(佐藤委員) 横浜市歯科医師会の佐藤でございます。まず、15ページになります。医療データ活用の推進に関して、8年度は、高齢者の医療・介護に関する分析をさらに進め、地域特性を把握し、その結果を政策評価や新規施策の立案に反映していきますと明記されています。2040年に向けた医療提供体制のお話にうまくマッチングするか分からないのですが、誤嚥性肺炎予防という視点で検討すれば短期間でかなり良い結果が出るはずで、地域特性を生かすとすると、本会で18区の特性を分析したところ幾つかの区で要支援・要介護の方々が非常に多いという結果が出ました。例えば医療データを使って誤嚥性肺炎予防などに生かしていただくと、大都市

の中で横浜市が良いモデル都市になるはずで、誤嚥性肺炎予防ができるとなると、2040年に向けた医療体制は非常に良い方向性に向かうと思いますし、横浜が一番にやるということが我々にとっても非常に良いことではないかと思っておりますのでご検討ください。

もう一点は、16ページにあります医療・介護連携体制の構築・推進というところで、7年度の先行実施内容を拝見いたしました。この地域完結型医療というところで行くと、歯科医師、歯科衛生士だけでなく、薬剤師さんや栄養士さんも関わりがあると思います。まずは体からになるでしょうが、体の入り口にある口腔というところで、歯科医師、歯科衛生士もぜひこちらに関わらせていただいて、それこそ最期まで、お亡くなりになるまで、お口でしっかりかんで摂食嚥下ができる、そしてお口の中をきれいにして誤嚥性肺炎予防につなげるということが地域完結型医療につながるのではないかと思います。

また、19ページで、この4疾病に関してはもう数年来、行われているところですが、18区の歯科医師会の中では各区の医師会の先生方と連携はそれぞれ温度差があるところがあるところが今現在、実感しているところです。ここに関してもうちょっと踏み込んだ、今までの従来どおりではなく、何か行政のほうからこの方向でということを出していただくと、より一層、歯科医師会としても関わりやすいかなと思います。

また、23ページです。若年層を対象とした医療職の魅力発信の体験職種例のところに、医師、看護師、薬剤師、放射線技師……となっています。我々最前線でやっている者としては歯科医師と歯科衛生士もぜひ入れていただきたいと思っております。在宅医療や医療的ケア児を担っている歯科衛生士もたくさんいますので、そこに関してもぜひご配慮いただければと思います。

また、54ページです。災害対応力の強化の項目の人工呼吸器を要する医療的ケア児への対応です。これについても横浜市を一くくりにして進めるのではなく、恐らく分析すると医療的ケア児の分布が出るはずで、医療的ケア児全てに電源設備等を置けるというわけではないと思いますが、具体的にうまく進めることができるのかなと。大災害になっても医療的ケアが必要なお子さんが命をつないでいけるのかというのが心配な点です。

また、先ほど戸塚副会長がおっしゃっていた看護師さんと病院とのマッチングというところでは、歯科衛生士、歯科技工士というのも非常に人材不足で養成・確保が不足しています。このマッチングアプリに、予算の関係はあるかと思いますが、歯科衛生士も何とかならないのかなというのが伺ってみたいところでございます。

(伏見会長) 事務局、お願いいたします。

(事務局市川医療政策部長) 15ページのビッグデータにつきましてお答えします。2040年に向けては様々な課題があり、そのうちのひとつとして、誤嚥性肺炎というの

も非常に重要な課題だと思います。今後、そのようなデータを用いつつ、様々な分析を進めることで、2040年に向け対応していきたいと考えております。

(事務局大友地域医療部長) まず、16ページの医療・介護連携体制の構築・推進ですが、2方面につきましては7年度の先行実施内容ということで、こちらに書かれているような方々を中心にご参加いただきご議論させていただいたところではございます。今後、7方面を進めるに当たっては歯科医師会様ともご相談させていただいて、どういう形でご参加いただけるのか引き続きご相談させていただきたいと思っております。

続きまして19ページ、疾患別の連携体制についてですが、今こちらの4疾患について各区を中心に検討を進めているところでございますが、検討も当たって歯科医師の方も参加しているケースが非常に多いと聞いております。具体的な課題についてもまた各区中心になるかと思いますが、歯科医師会様とご相談させていただきながら、どういう形で参加していただくのかなども調整させていただければと思っております。

続きまして23ページです。人材確保の部分ですが、確かに今回、歯科医師ですとか歯科衛生士については、体験職種としてはご参加いただかなかったところではございますが、歯科のほうで具体的な体験のようなことを行う機会があれば、ぜひ歯科医師会様とそちらの体験へ参加についてもご相談させていただければと思っております。

あとは個別避難計画、54ページですが、こちらは10月から、人工呼吸器等を要する方の個別避難計画の作成を進めているところで、現在、大体100ぐらいの方の個別避難計画の作成が進んでいる状況です。完成まで至っているものはまだ数件という段階ですので、完成している個別のケースの状況・中身などもしっかりと見させていただき、また研修なども行わせていただく形で具体的にこちらの内容について引き続き作成の支援や、中身を確認して具体的に課題があればそれを解決していくような手段を取っていききたいと思っております。

最後に、先ほど戸塚副会長からもお話があった医療機関と医療人材とのマッチングについてですが、医師会様のシステムになっておりますので、歯科医師も含めて対応できるかどうか、歯科医師会様ともご相談させていただければと思っております。

(佐藤委員) ありがとうございます。23ページの体験イベントに関しては、ツールはあります。楽しく参加型というのはできますので、ぜひお願いします。また、15ページですが例えば舌磨きと歯磨きの徹底した口腔ケアを行うことも誤嚥性肺炎予防になります。これからの死亡率ということを考えると、効果がすぐに出るものですので、これに関してはぜひご検討いただければと思います。企業が手をつけようとしていますが、企業よりもやはり行政がしっかりやったほうが良いかと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(松井委員) 病院協会の松井です。先ほど戸塚会長がおっしゃられた高齢者救急の勉強会ですけれども、そこで後方病院に送るに当たって行きたくないという患者さんがかなりいるらしいのです。後方病院は小さくて看護設備も整っていないという印象があるのかと思いますが、そういったことも含めて勉強会としては後方病院が非常に重要だということが理解いただいております、みんなで何とか解決しようと思っ
て取り組んでいます。市の協力を得てやっていきたいと思っていますので、よろしく
お願いします。

(4) 令和8年度健康福祉局予算案について【資料5】

(事務局松村企画課長) [報告(4)について説明]

(伏見会長) ただいまのご説明についてご質問等ありましたら発言をお願いいたし
ます。

(中村委員) 横浜市保健活動推進員会の中村でございます。先ほど説明がありまし
た「市民の健康づくりの推進」について発言させていただきます。

保健活動の取組は、地域のお祭りや自治会館、商業施設など、市民にとって身近
な場所で健康測定会や体操教室、講習会を実施するとともに、ウォーキングイベン
トの開催などを通じ、市民が自らの健康に向き合うきっかけづくりに取り組んでお
ります。こうした活動を積み重ねることによって、横浜市とともに健康横浜21の
推進に尽力しています。

また、拡充された禁煙支援・受動喫煙防止対策事業に関連して、世界禁煙デーや
九都県市喫煙防止対策共同キャンペーンに合わせ、パネルの展示や啓発チラシ、物
品等の配布を実施しております。喫煙は多くの健康被害をもたらすことから、市民
の理解促進と行動変容を進めるために、継続した情報発信が欠かせません。今後も
幅広い世代に禁煙の必要性を伝えていきたいと考えております。

引き続き、健康支援など受診促進や運動習慣づくりに加え、多面的な健康づくり
を推進できるよう、横浜市と緊密に連携しながら地域に根差した活動をさらに進め
てまいりたいと思います。

(事務局樋田健康推進部長) ただいま中村委員からご紹介がありましたとおり、保
健活動推進員の皆様には、日頃から市民の健康づくりの推進役として活躍していた
だき、本当にありがとうございます。保健活動推進員の皆様がより活発に活動でき
ますように、来年度の予算につきましては、いろいろと活用できる媒体なども作成
してまいりたいと思っておりますので、今後とも健康づくりにご協力いただけます
よう、よろしく申し上げます。

(石内委員) 社会福祉協議会の石内です。20ページの「在宅の高齢者の支援」の3
番、情報登録事業というのは、去年11月から健康福祉局で新規に始められた事業で
す。病気や事故で在宅の高齢者が意思を伝えることができなくなった場合にかかり
つけのお医者さんや緊急連絡先を事前に市に登録しておくという制度で、この登録

事業に関することを含めて終活に関する相談を市社会福祉協議会で受けていますが、今後これが相当数が増えてくるかという見込みの中で、18区全ての相談窓口を市社会福祉協議会1か所で担うわけにはいかないと思います。将来的には、地域の人にとって一番身近な市内146か所ある地域ケアプラザと連携しながらやっていくということが考えられますが、どのようにお考えかという話が1点です。

在宅高齢者の人の見守りや訪問相談、あるいは行政へのつなぎといったアプローチは、まさに民生委員・児童委員さんが担っています。18区で4400人ぐらいの民生委員・児童委員さんがいらっしゃいますが、あまりこの情報登録事業や終活関係のことをご存じないこともあるようですので、情報提供を含めて今後、民児協との連携をどのように考えているのかという2点を教えていただければと思います。

(事務局松村企画課長) 地域福祉保健部が直接の担当になっておりますが、本日は私から回答させていただきます。今、石内委員からご紹介いただきました情報登録事業は、委員のご発言の中にもありましたが、ご自身の緊急連絡先や、いわゆるエンディングノートの保管場所等を事前に市に登録していただく制度で、昨年11月からスタートしております。現在、1月下旬時点では362件ぐらいの方に登録いただいているところでございます。

委員から頂いた質問は2点ございました。まず1つは、今現在は市社会福祉協議会さんのあんしんセンターの中で相談窓口を設けて受けていただいておりますが、もう少し広げていく必要があるんじゃないか、その辺の考えはどうかということでございます。おっしゃるとおりだと思います。このまま市社会福祉協議会1か所でもいいとは思っていません。もう少し広げる必要があるのではないかと考えています。国のほうも身寄りのない高齢者支援について、最終的には地域包括支援センター等が中心になって進めることというような考えもありますので、今後の動きを見ながら考えていきたいと思っております。

それから、民生委員・児童委員を含めた民児協への説明はどのようになっているのかということです。一度、担当課のほうで説明させていただいておりますが、なかなか既存の事業との違いが分かりにくい。自分たちが地域の見守り活動とかやってきた中で、この情報登録事業とどこが違うのだろうと、やはり新しい分野ということもございまして、率直に申し上げてそういう部分はあると思っております。ただ、この情報登録事業をさらに拡充していくには民生委員・児童委員の皆様の協力が不可欠だと思っておりますので、そこは4月以降、引き続き丁寧な説明をしていきたいと思っております。

(坂本委員) 薬剤師会の坂本です。2点ありまして、1つは51ページの薬物依存。これに関して、薬物乱用防止などのキャンペーンを横浜市と一緒にやらせていただいております。本当に増えているというのが現状のようで、教育委員会とも話しながら、6年生向けに授業をすとか、そういう形でも活動しているところではあります。薬物ということでぜひ薬剤師会を使っていただいて、さらに対策していきたい

と思っています。

2点目は、この議題にはありませんが、緊急避妊薬が2月2日に一般薬として解禁になりました。これまで検証実験を日本中でやっており、横浜でも戸塚市医師会長にご相談して市医師会産科医会の小関先生にもご協力いただいて検証実験を行ってきました。そろそろ登録された各薬局に製品が来ていまして、大倉山の駅から3分くらい行った私の支店ではもう朝、人が待っていたなど、需要があるようです。女性の市会議員の先生たちも緊急避妊薬に関しては非常にご興味をお持ちでしたが、市ではどこの部署が担当をされているのか、その2点でございます。

(事務局松村企画課長) まず、私から1点目にお答えさせていただきます。依存症対策の推進部分にご意見頂きましてありがとうございます。今ちょうど依存症対策計画の原案を策定しているところでございます。市販薬ですとか、最近ではオンラインギャンブル等の依存が大変問題になっております。今、委員のほうで小学生ともというお話をさせていただきましたが、私どもも小学校、中学校に出向いてこのオンラインギャンブルの依存を、いかにそうならないようにするかということについて、実際に小学生、中学生、高校生の意見を聴いているところです。今日は担当課がおりませんが、薬剤師会様とも積極的にいろいろなことを進めていきたいと思っております。また何かありましたらご相談させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局原田医療局長) 先ほど2点目に緊急避妊薬の件がありましたが、まだ市販が始まったばかりということで、どういった対応が必要かというのも市のほうでまだ明確になっていないところもございます。一義的な窓口としては医療安全課などが考えられるかなと思っておりますので、そこにご相談いただき、案件によってはまた担当の部署をご紹介させていただきたいと思っております。

あわせて、薬物対策ということで、薬物乱用防止キャンペーンなどにご協力いただいております。医療局予算概要にも掲載しておりますが、やはり最近薬物、麻薬の類いもそうですが、いわゆるオーバードーズなどは非常に件数が増えてきているということもありますので、そのあたりも含めてまたキャンペーンなどで十分な啓発を薬剤師会の皆様とも一緒になって行っていきたいと考えております。

(佐藤委員) 19ページのデータを活用したフレイル対策のところですが、これは各区の特性があると思います。健康格差、経済格差、あとは外国の方もいらっしゃるはずですから、例えば鶴見区、中区などは外国籍の方が非常に多い地域ですので、その区に特化した指示が市から区に出ることで、データ活用にプラスアルファの効果検証につながるのではないかと思いますので、そこについてご発言いただきたいと思います。

(事務局新井高齢健康福祉部長) まず、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業につきまして、区ごとに特化したやり方等についてご発言いただきました。こちらは、データでフレイルリスク、介護予防リスクの高い方を抽出し、そこに個別

のアプローチをして実際に支援していくというようなスキームになっておりますが、実際には区役所が中心になって個別的な支援を行っております。区役所にも保健師と看護師を配置しまして、それぞれ訪問や、あるいはスポーツクラブ等で体を動かしてみるような教室などで、歯科医師会さんにもご協力いただくことがあるかと思っておりますが、そのようなことを行っています。現場に近い区役所で行いますので、区の特性や、先ほど外国籍の方というお話もありましたが、そのような方の対応も日頃行っておりますので、そうした中で工夫して対応させていただきたいと考えております。ただ、どうしてもなかなか対応が難しいということにいろいろあるかと思っておりますので、局のほうは、横で情報共有をしながら工夫しながら個別的な対応を工進めていきたいと考えているところでございます。

(齊藤委員) 横浜市食生活等改善推進員協議会の齊藤と申します。先ほど説明がありました「市民の健康づくりの推進」における「よこはま健康アクションの推進」の「将来を見据えた健康づくりの強化事業」について発言させていただきます。

私たち横浜市食生活等改善推進員協議会では、横浜市と連携し、第3期健康横浜21の推進に日頃から取り組んでおります。子供から高齢者まで、世代に応じて食の楽しさや大切さについて体験を通して伝え、やってみようと思っただけのきっかけづくりを大切に活動してきました。講座では、身近な食材でできる簡単な料理や、栄養バランスを意識したメニューの紹介など、日常生活に取り入れやすい内容を心がけています。昨年度に続き、18区で「健康を守る暮らしの備え」をテーマにした取組も進めており、地域の皆さんに無理なく続けられる健康づくりをお届けしているところです。次年度からは、女性の健康づくりについても活動の中で一緒に進めていければと考えています。食を切り口に、女性自身が自分の体と向き合い、健康に気づききっかけづくりに貢献できるのではないかと考えております。

(事務局樋田健康推進部長) ただいま食生活等改善推進員さんの活動についてご紹介いただきましたが、食を中心とした健康づくりにご尽力いただいております、ありがとうございます。また、将来を見据えてといったところで女性の健康づくりについて次年度以降も力を入れていただけるということですが、横浜市は女性の健康寿命が縮んでいる傾向にございます。先ほど骨粗鬆症検診の話もありましたが、女性の健康づくりについて特に力を入れていきたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

(伏見会長) ほかにご意見・ご質問等、よろしいでしょうか。

(委員) [意見なし]

(伏見会長) 本日本日予定した議題は以上になります。事務局から発言等ありましたらお願いいたします。

(事務局新堀課長) 本日は活発なご議論をいただきましてありがとうございます。なお、委員の皆様の任期につきましては、3月末をもちまして満了となりま

	<p>す。2年間にわたりご尽力いただき、誠にありがとうございました。</p> <p>[事務局原田医療局長あいさつ]</p> <p>(伏見会長) [閉会のあいさつ]</p>
資 料	<p>1 資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1 令和7年度病床整備事前協議について [非公開] ・資料2 配分済み病床の整備進捗状況について ・資料3 「横浜市新型インフルエンザ等対策行動計画」の改定について ・資料4 令和8年度医療局予算案について ・資料5 令和8年度健康福祉局予算案について ・参考資料1 横浜市保健医療協議会運営要綱 ・参考資料2 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（一部抜粋）